

#111 EXPRIDE G-Tech Sports GT/R は 9 月 4 日、第 4 戦富士での決勝レースを迎えた。

前夜の雨もあがり、時おり陽もさすお天気になってきた。

昨年の 8 時間レースよりもさらに 1 時間長い、シリーズ最長の 9 時間レース “スーパーTEC” の幕開けだ。通常のレースでは行われる決勝レース前のフリー走行もなく、65 台のマシンがスターティンググリッドに並んだ。

午前 9 時、9 時間先チェッカーをめざして、ペースカーの先導からローリングスタートが切られた。

予告通り、#111 EXPRIDE G-Tech Sports GT/R のスタートドライバーをつとめたのは大瀧賢治。「セミウエットながらスリックで行けるコンディションでした。ストレートでスピードのマーヅンを生かして、序盤は ST4 クラスの 2~3 番手争いに加わっていました。20 周を過ぎたころ、A コーナーでガス欠症状が出てそのために早めにピットインして給油をしました」

スタートから 1 時間半を過ぎたころ、クラス 16 番手で武井寛史にドライバー交替のためピットイン。

「序盤のスティントで他車との接触があったみたいで、クルマのバランスが悪くてステアリングの応答性が悪くてコーナーではだいぶ苦労しました。それでもトップ 10 圏内まで浮上したんですが、追い打ちをかけるように僕が黄旗追い越しのペナルティを 2 回も受けてしまい 10 秒のストップを課せられました…」と武井。スタートから 3 時間ほどで 3 人目の今井龍太にバトンをつなぐ。

「ミッションがちょっと入りづらくなっていました。アライメントもずれていたようですが、それ以外はなんとか行ける状態で、コンスタントに走らせて 90 分ぐらいのスティントを終えることができました」と初の S 耐レースとなった今井は無難に彼の 40 周のパートをこなしたようだ。

4 人目のベテラン松本晴彦も S 耐は久々の参戦となった。

「アンダーがちょっと強くて、リアのブレーキバランスに問題があったみたいでした。シフトアップ入りづらくなって、ちょっとてこずりましたが大きなミスがないように、速いクルマの迷惑にならないように走りました(笑)」と 41 周のドライブを終えた松本。再び大瀧にステアリングを託す。

15 時、残りが 1 時間 15 分をきり大瀧はクラス 9 番手で走行していた。しかし、ピットに備え付けられていたモニターにマシンが止まる映像が飛び込んできた。ドライブシャフトのトラブルが発生し、コースサイドにストップしてしまった。

今大会では、2008 年まで開催されていた十勝 24 時間レースに設けられていたリペアエリアが設置されていた。ここまでマシンが運ばれ、チームではピットからメカニックやパーツなどを運び込み作業ができるのだ。

G-Tech Racing のメカニックは僅か 15 分で作業を終わらせマシンをコースへ復旧させた。

残り 1 時間を切っていたが、なんとか大瀧はピットまでマシンを運び、アンカーの武井にバトンをつなぐことができた。

9 時間レースで 234 周を走りきり ST4 クラスでトップから 22 周おくれの 15 番手という結果にはなったが、なんとか完走を果たせた。

「開幕戦のもてぎから、鈴鹿、富士と同じエンジンでしたがパワーにも問題なく、タービンにも問題はありませんでした。いいデータが取れたと思います。うちのクルマにはドライでの 9 時間はちょっと長かったかなと思います。一昨年の富士でも同じトラブルが出ていましたから…ファーストラップの 1 分 58 秒 605 は残念ながら最後に #13 の元嶋選手に 58 秒 455 で奪われましたが、パフォーマンスはみせられたと思っています。」と大瀧。

「もてぎでポイントはとれたので、次回は 6 位以内の入賞をめざしたいです」とレースを終えマシンから降りてきた武井は汗をぬぐった。